



育成の夏 こどもおぢばがえり4年ぶりの開催



教会本部西スロープより、西礼拝場を望む（6月3日）



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

お知らせ
第48回婦人会夕張支部総会 7月22日(土)
夏のこども会 8月11日(金祝)
月次祭 8月15日(火) 9時30分開扉献饌
婦人会母親講座 8月20日(日)

『欲を捨てれば、神様に使って頂ける』

欲を忘れてひのきしん。欲があるならやめてくれ、神が受け取れない。見返りを求めてしまつてはせつかくの「日の寄進」も無駄になる。欲を離れて、もっと明るくなりたい。こういう気持ちが日ごろ頭の中で浮かんでは消えて、ぐるぐるとしておりますが、正味の自分はどうかと言うと、目の前の問題に次々と悩んでおります。悩みというのは、原因が解決しない限り決して晴れる事はありません。頼る所は親である神様しか無く、つい先月ですが、親神様に無理な事情の解決を願いました。幸いな事に、その無理をお聞き届け下さり、助けて下さいましたが、自分の未熟さを改めて思い知り、おやさまにお詫び致しました。

難しい事情の解決を見た後は、目に映る今まで当たり前前の風景が、何とも美しく、道路の信号機さえ愛おしく感じました。身上の病であれ、事情であれ、全ては、私の心を成人させてやりたいと、親神様と与えて下さった節であり、贈り物でした。

この年祭の句に「自分は助けられた。もう何も要らない」と思える出来事でした。人助け、ひのきしんが神様へのご恩返しになるのだから、ただ素直に「今日も一つでも恩返ししたい」と今なら心から思えます。

話は変わりますが、数年前に教会へ初めて来ら

れたある男性が、先日交通事故に遭いました。対向車線から飛び出してきた車を避ける事ができず、自分の運転する軽トラックの正面が激突。車の前部分は完全に潰れました。刹那、ダメだと思つたのですが、鎖骨の骨折など複数の怪我を負つたものの一命は無事でした。運ばれたのは岩見沢市立病院。気がついて起き上がった時、窓から神殿の背中が見えました。「俺はもしかして天理の神様に助けられたんじゃないか？お婆ちゃんが信仰してた天理教に……」

それから毎日教会を見ていたと、先月お礼参拝にお越しの際、話して下さいました。病院から見ると、毎日遅くまで1箇所だけ電気が点いている。夜中を過ぎてはまだ点いている。「毎日遅くまで何をしてるのか、ご苦労さんだな。」「あの灯りを見てると安心するな。」と感じ、毎晩見たいとの事でした。その窓は、私の今の仕事部屋です。私はただ毎日、あれを解決しなきゃ、あそこへも行かなきゃ、においがけが出来ていない、などと悶々とし、眠れず過ぎ過ぎていただけなのですが、まさかその窓の明かりを頼りとしていた人が居たとは。

欲を出さず、ただ喜ばれるように接しただけですが、その方が自らおぢば帰りを決めるとは。

その方のお婆様の真実にお礼を申し上げ、おやさまが先回りをして事故から救って下さった事にお礼申し上げます。そして私が神様の御用に使つて頂けた事が何より喜びでした。

大教会長 藤田大和

新緑の風景に感じる

火水風の御守護

六月月次祭の様

6月の北海道はぐんぐんと気温が上がリ、夏日になる日もあって、本格的な夏が近づく事を感じさせる陽気が続いていた。15日の祭典当日も、予想気温は25度を超えるとの事、朝から大きな扇風機を殿内で回し、急いで網戸を取り付ける程であった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。今より50年前の昭和48年6月16日に、前会長夫妻の結婚式が執り行われており、翌日には金婚というめでたい月次祭となり、お祝いの思いで参拝する方もいらつしやつてか、殿内は大勢の参

拝者で埋まり、賑やかなおつとめとなった。

講話に先立って、辞令交付があり、青年会の部属分会委員長に新たに2名が任命され、所属の会長へ、大教会長より辞令が渡された。

講話には宮本和昭役員・夕喜元分教会長が壇上に上がり、「前会長さん御夫妻は、明日で結婚50年ですね。当日の事を思い返そうとするんですが、徹夜で忙しく動いていた事は思い出すものの、具体的にどんな準備をしていたか、全く思い出せないですね。それだけ慌ただしく皆が動いていた、という事ですね。その年は9月に

大教会への陸級奉告祭を控えており、また6月には峰延の会長さんの就任お運びもあり、夕張全体が大きく動いていた時でした。私達夫婦もその年の11月が結婚式でした、私達も同じく五十年となりました(会場拍手)。

当時を振り返って

当時、学生会と青年会を横断す

るようなかたちで、若い人達が夕張に集まる『サンヤングクラブ』というものがありません。週一回、または2週間に一回と集まって、様々な行事や活動に取り組んでいました。また、大教会陸級の前年に行われた、青年会総会では、30名の青年会員が集まり、12交代でおつとめを勤めました。おちばでは、

富山敦雄先生を中心に『親里サンヤング』が結成され、管内の夕張に繋がる学生や勤務者を集めて、色々な活動をしていました。

夏は桂沢湖畔や大正池にて練成会キャンプ、また教区主催の隊長クラス練成会、さらに本部主催のYHC(青少年ひのきしんキャンプ)などが行われました。先だつての前会長さんの講話の折には、スライドショーで当時の写真が何枚も出てきて、非常に懐かしく思いました。私が全然写ってないんですね。つまり、私がカメラマ

ンで撮ったものばかりだったんです。『どうしてそんなに熱心になれるの?』と当時もよく聞かれましたが、周りを喜ばそうと努めるそ

の実、私自身が一番喜んでいました。

三十乃奥様の声かけ

きつかけとなったのは、それより少し前、昭和39年頃のことです。両親は直轄信者であり、私は会社勤めをしていて、なるべく教会には近付かないようにしていました。

ある夜、家に帰ると、三十乃奥さんが講社祭で来ていて、私が教会まで送っていく事になりました。車内で三十乃奥さんは『文雄がおちばから帰って来てるから、会ってかないか』と仰り、それなら少し、と文雄さんのところへ顔を出しました。文雄さんはその時、影絵に使う紙人形を作っており、そういった工作が好きなのは手伝ってから帰りました。

それからというもの、仕事終わりに夕張へ寄って文雄さんの手伝いをするようになり、気付けばその年の練成会のスタッフになりました。練成会の時、小野寺先生が『宮本君、楽しんでるか? 楽しんでなければ、子ども達は喜ばないよ』と仰ってくれたのが、未だに心に残っています。

昨年の12月で、75歳となり後期高齢者の仲間入りをしました。退職してゆっくり過ごそうかと思っ

ていましたが、仕事用の書籍の片付けに忙しい毎日になっています。片付けをする中で『みちのこのうた』という本を見つけました。昔、三十乃奥さんにもらったもので、スタッフとして暗記するほど唄ったものでした。中には『ソングリダーの心得』という項目がありまして、抜粋すると『みちのこのうたは、子ども達と心を結ぶ手段。そしてまた、教理のかどめを伝えるものとして、また集いの運営手段として、さらに大切なことは、信仰の喜びを直接歌によって、子ども達に伝える事があります。教祖のお話に感激を持って語ると同じ気持ちで、唄うことが必要です。明るい喜びに満ちた心を持って、みちのこのうたを子ども達と共に唄う時、自らこちらの心が子ども達の心に伝わっていく事である』とあります。

小さい頃、母が唄ってくれた曲を思い出します。『三つの木』という歌です。その頃から、お道の歌に触れていたんですね。この間、孫が御誕生祭の日に教会に来ていて、『教祖御誕生祝歌』をCDで流すと、『じいちゃん、この歌知ってるよ』と言って、一緒に歌いました。家内が教えていたようですが、子どもは小さい時に覚えたものというのは、結構覚えているんですね。



神殿講話・宮本和昭役員

今、神殿の壁には『にちく』に心つくしたものだねを 神がたしかにうけとりている』(号外)とおふでさきが貼り出されています。これには続きがあり、『しんぢつに神のうけとるものだねわ いつになりてもくさるめわなし』、『たんとく』とこのものだねがはへたならこれまつだいのこふきなるそや』(いずれも号外)とあります。これらは全ておうた7番として唄われていて、このメロディが非常に素晴らしい。このおうた7番は今から51年前の、昭和47年10月26日の秋季大祭終了後に、中庭にて初めて披露され、お道全体に広まっていきました。この曲は、メロディを唄う人、合唱パートを唄う人、そして楽器を奏でる人が同時に演奏し、そこからより重厚な一手一つのハーモニーが生まれます。私地は北海道教区の合唱に参加し、いつもこのおうた7番を唄っていました。お道のうたによって、様々な経験や沢山の出会いがあり、信仰生活を送る中で大切なものとなっています。

長男の身上とおうた

『どうして教会になったのか』という事をよく聞かれるんですが、『座右のおふでさき』という本に私が寄稿した記事が載っています。『このみちハどぶゆう事にをもうかな このよをさめるしんぢつのみち』(六号四)、この題目で一文書

6月の名古屋は梅雨入りしましたが、あんまり雨が降らず、暑い日が続いております。暑さに負けないように毎日勇んで歩いています。

愛知 張志の
高橋 悟の
布教日誌 vol.3



間に回ったり、人が多く集まる駅に行つてリーフレットを配つたりしています。

6月25日には、愛知寮伝行だき、想定を超える人数で目の回るくらいに忙しくなりました。7月は、月末にこどもおちばがえり団参を企画して、忙しい毎日が続くことと思いましたが、一人でも多くの人におちばへ帰ってもらえるように頑張りたいと思います。

3か月はとにかく歩け」とよく言われており、この6月はその締めめの月になりますので、歩いて歩きまわった月でした。近くの場所はほとんどにいがけし尽して、最近はお道1時間半くらいかけて戸別訪

事である、こども会をしました。こども会は、近所のこどもたちを声を掛け、楽しんでもらうという行事で、今回は夏祭りを

かせて頂きました。(以下、本文) 『教会長になって一年半が過ぎた。教祖百二十年祭の年に、長男の身上をご守護いただいたことがきつかけで、翌年秋に無担任教会を受けさせていた。』

わが家は代々、他宗の信者だったが、お道の家庭に育つた母が嫁いできて、私の弟である次男の出直しから、家族ぐるみの信仰となつた。やがて布教所の看板を掲げた両親は、私たち子供はもちろん、孫にも信仰を伝えてきた。

9年前、私が住む北海道でも教

区合唱団が結成され、妻と一緒に参加した。小学時代以来の合唱だったが、翌年開かれた教区「おうた演奏会」でステージに立った感激が忘れられず、その後も親里や各地の演奏会に夫婦で参加することになった。

振り返れば、「おうた」を歌うことで教えを味わい、信仰を深めることにつながっていると思う。

掲出のお歌は、おうた12交声曲『ひながたの道』、同19カンタータ『成人の道』に見られる。練習や演奏会で歌うたびに、教祖のひながたに思いを馳せ、この道の信仰を伝えてくれた両親に感謝している。

新米教会長ゆえ、時折「どのようにして教会に？」と尋ねられることがある。確かに、長男の身上のご守護は直接的なきっかけではあるが、その心を定める素地が培

われたのは、「おうた」を続けてきたおかげにほかならないと思い、そう答えている。(原文ママ) 夕喜元分教会と改称し、私が教会長になってから16年目になります。北遠分教会の5代会長が出席して、16年間無担任の教会だったんです。そこから同じだけの年数、休むことなく朝夕のおつとめ、月次祭をつとめ、ここまですべて出来ました。これからも恩返しのもりで、しっかりと年祭活動に励んでいきたいと思っています。

昨年未まで市立病院で務めておりましたが、コロナの感染病棟の隣で働いていた事もあって、なかなか信者さんを教会に集める事が出来ませんでした。先月より徐々に皆さんに月次祭に参拝して頂き、壇上で皆さんを前に話をする時には、胸が熱くなりました。これからも年祭活動を、心を寄せて教祖にお喜び頂けるようにつとめて参ります」と話した。

大教会長はあいさつにて、翌日に金婚を迎えられる前会長夫妻に触れられ、前会長夫妻が前に出て、参拝者一同から「おめでとうございます」の声と、万雷の拍手が沸き起こった。撒餠の前には、教祖の前で前会長夫妻よりお礼の気持ちとして、参拝者に紅白の饅頭が配られた。



金婚を迎えられた、前会長ご夫妻

6月26、28日、本部百母屋に於いて、青年会分会リーダー合宿が開催され、夕張を代表して参加させて頂きました。

全国の分会より委員長が集まり、他分会との交流と、活動内容の共有、そして青年会本部の思いを各分会へ持ち帰るため開催されたこの合宿。コロナ禍の中、本部行事も開催されず、ひのきしん隊も参加出来ず、他分会の方と知り合う機会もありませんでした。一人も知っている人がいない中の合宿、この歳になって久々に緊張と不安を感じて百母屋へと向かいました。

合宿では7名が1班に分かれ、3日間の短い時間の中で、信仰について、分会活動について、問いと対話を繰り返しました。その中で、自分が思いもなかつた心の奥底にある気持ちや、向かうべき道に気付き、実りのある時間を過ごすことが出来ました。また班を仮想分会として行事作成に取り組みワークでは、夕張分会をモデルケースに班員全員で具体的なプログラムや予算まで



他分会と真剣なやりあい (筆者、右端)

今後は夕張分会において、今回の合宿で得たものを、少しでも多く還元し、みんなが勇めるような分会活動を目指して、取り組んで参ります。また、親里の雰囲気の良いも改めて感じました。11月25日の本部総会には、一人でも多くの仲間と、おぢばへ帰りたいと思います。

分会リーダー合宿に参加して

夕張分会委員長 藤崎勇

考え、かなり実現可能性の高い行事を作る事が出来ました。後程、青年会長様に作った行事をプレゼンすると「すごく面白そうですね」と言ってくき、班員全員で喜びました。

合宿前には顔を見た事もなかった人達が、終わる頃にはまるで旧知の間柄のように仲良くなっていました。それぞれの分会や委員長が抱える悩みも、教会の規模や土地所の状況によって様々かと思っていました。不思議な程に似通っていて、互いに共感しあつて、一層仲が深まりました。青年会本部の基本方針についてや、総会の意義についても、この度の講義で深く知る事が出来ました。

第2回鼓笛体験

子ども会開催

6月11日、2回目の鼓笛体験子ども会を開催、少年会員10名、育成会員7名が参加した。

午前中は、おつとめ練習と、みちの子作品展に出品する作品をみんなで制作した。

昼食後は、それぞれのパートに別れて、鼓笛練習を実施し、育成会員に教えてもらいながら、楽器に親しんでもらった。



次回体験会は9月を予定。少年会常時活動です。ぜひ、ご参加ください。(団長 藤田豊)

今月の回廊ひのきしん

6月25日9時より、御本部にて、7名で回廊ひのきしんをいたしました(下写真)。

講習を終えて

馬追 安藤眞佐代

去年の5月から3期に分け、1年がかりで2度目の講習を受けることができました。それぞれの期で、熱い思いを持って参加された方や、とても気をつくやさしい人、教祖への思いがとても大きく素晴らしい講師の先生方と出会えました。素晴らしい人、学びの場などを与えて下さった親神様に感謝です。

又、ねりあい、演習が多く、より実践的でした。メンバーの話や意見もたくさん聞け、自分ならどうすれば良いかを学びました。まずは、身近な人に教える伝えていきたいと思えます。

毎回詰所の主任先生や阿部さんには、とてもお世話になり、ありがとうございました。

庶務部

6月

- ▽初席 白川 由麻 (旭都) 6・24
- ▽教人資格検定講習後期 6・6〜10
- 古屋 くみ子 (馬追)
- 安藤眞佐代 (馬追)
- ▽詰所ひのきしん
- 石井 幸子 (上静陽) 6・28
- 古高 麗子 (上静陽) 6・28
- 宮脇 恵子 (上静陽) 6・28
- 梶川 芳史 (新生生) 6・28
- ▽詰所教養掛(7、8月は詰所当番)
- 6月 岩佐善昭 (志加ノ谷)
- 7月 藤田 豊 (幌都) 19〜26日
- 齊藤智明 (南幌) 26〜8月2日

大教会日誌抄 6月

- 1日 たすけ推進会議
- 4日 会長、支部例会、組例会
- 5日 会長、おたすけの為、香川県へ(8日)
- 8日 前会長、札幌刑務所教誨師
- 10日 会長夫妻、北網分巡教
- 11日 少年会子ども会(鼓笛)
- 12日 会長、保護司活動
- 13日 会長、保護司会
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 17日 前会長、四国越智内大崎分教会記念講演
- 19日 会長夫妻、札美分へ
- 20日 会長、保護司会
- 23日 会長、おぢばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 前会長、神崎大教会年祭参拝
- 25日 本部廻廊ひのきしん
- 26日 会長夫人、婦人会夕張支部長拜命
- 27日 本部月次祭(会長 雅楽奉仕) 遥拝式
- 28日 会長、かなめ会
- 29日 会長夫妻、帰会
- 30日 会長、保護司活動
- 南空知支部婦人会(女鳴物教室)